

妊娠中の食品・嗜好品・薬に関する認識度について

吉田 真奈美 溝口 祥代 山下 真由 田上 志保 川上 舞子 藤井 友紀

指導教員 中塚 幹也教授

【緒言】

近年、食生活は多様化し食物摂取の個人差は大きい。このため、妊娠期に必要とされている栄養素を適切に摂取できていなかったり、摂取を控えるべきものが過剰に摂取されていたりすることも懸念される。本研究では、妊娠中の摂取について留意が必要と思われる食品、嗜好品、薬に関する妊婦の認識度を明らかにした。

【方法】

岡山県・広島県内の分娩を取り扱う病院において妊婦健診を受けていた妊婦 209 名を対象とし、2007 年 7～11 月、外来にて同意のもと無記名の自己記入式質問紙に配布し、回収箱に投函する形で回収した。

【結果】

1. 葉酸について

妊娠中にサプリメントを摂取することに半数以上の妊婦が否定的であった。「妊娠前・妊娠中に葉酸を摂取すると、胎児の先天異常の確率が下がる」ことを知っていた妊婦は 44.5%であった。葉酸摂取の意義について知った後、サプリメントによる葉酸摂取に肯定的である妊婦が増加した。それでも否定的である妊婦の理由は「サプリメントを使用することに抵抗がある」が最も多かった。葉酸について医療スタッフより情報を得ていた妊婦は約 7%あった。

3. 水銀について

「妊娠中は魚の摂取について注意が必要であること」を知っていた妊婦は 54.8%であった。水銀について医療スタッフより情報を得ていた妊婦は約 7%あった。

3. 薬について

妊娠中は風邪薬等の市販薬を一切摂らないと回答した妊婦は 57.0%、ビタミン剤・健康食品に関しては 54.7%であった。

4. 喫煙について

妊娠と喫煙の関連を知っていた妊婦は 99.5%、知らなかった妊婦は 0.5%であった。もともと喫煙者であった妊婦は、妊娠とともに 78.2%が禁煙していた。これに対して、妻の妊娠を契機に禁煙した夫は 18.9%であった。

【考察】

葉酸や水銀に関して、妊婦と直接関わる医療スタッフが情報を提供している率は低かった。薬に関しては、ビタミン剤であっても妊娠中一切摂取しないとする妊婦が半数以上いるため、サプリメントでの葉酸摂取を勧めるうえでは医療スタッフからの正確な情報提供が必要、また、有効であると考えられる。また、妊娠中の禁煙の必要性への認知度は高かったが、夫は喫煙を続けている人が多いため、妊婦は受動喫煙にさらされている可能性が高いと考えられる。このため夫も含めた禁煙の啓発が必要である。

【結論】

妊娠中の葉酸や水銀の摂取に関しては、妊婦の認識度は高いとはいえず、薬に関する情報も含め、今後、周知方法を工夫する等の対策が必要である。中でも、医療スタッフによる情報提供はその認識度に大きく影響を与える可能性があり、妊婦の行動変容を促すきっかけになると考えられる。